



他人のアイデアを素直に褒めよう

残念なことに、人の発明品を否定したり、けなす人がいます。しかし、他人のアイデアや話に素直に耳を傾け、褒め認めることは、発明で成功する上でとても重要なことなのです。

8 人を褒めよう

発明をけなすとはこのような発言のことです。「〇〇を切っただけ、〇〇に穴を開けただけのアイデアじゃないか! その程度なら、自分にもできる。たったそれだけのことで、何億円も儲けたなんて、うまいことやったものだ!」という具合です。絶対に許しがたい発言です。

それよりも「〇〇を切っただけ、〇〇に穴を開けただけで、新しい効果を生み出したとは、なんて素晴らしい発想なのだろう! やっぱり発明は面白い。勉強になるなあ。ぜひこの発明家から多くを学びたい!」と、なぜ、こう考えることができないのでしょうか?

答えは簡単です。発明を難しく考えすぎているのです。

たとえば、このような人の場合、発明主婦が考える包丁やスリッパなどの日用品のアイデアよりも、車や青色LED、スマートフォンの発明のほうが偉いと勘違いしているため、こんな発言が飛び出します。

そのような考えの人は、自分の発想力すら否定してしまっていることに気が付いていません。「その程度のこと」とけなすぐらいなら、自分が先に事業化して、何億円もの利益を自分のものにすればよかったのです。

でも、自分は事業化しませんでした。しかし、この場合、やらなかったというよりも、「その程度のこと」にも気が付けなかったというべきでしょう。

このような人は、自分が偉いと思っている、車や青色LED、スマートフォンなどの発明分野に手を出します。しかし、たいいてい場合は、自分の発明レベルを上回っている場合が多く、自分では試作も実験もできません。結果、いつまでたっても、成功することができないのです。

「〇〇を切っただけ、〇〇に穴を開けただけ」の着眼点を学べば、少しでも発明で成功するチャンスが増えるかもしれないのもったいないことです。

難題に挑戦するのは素晴らしいことです。しかし、人のアイデアを低く見た

り、けなしたりしてはいけません。何よりも、発明に上下貴賤の別はないことを知るべきです。

9 謙虚に学ぼう

全国ではさまざまな講演が催されています。また、発明家が集う勉強会もあります。この発明勉強会では、さまざまな会社の社長や開発者を招いて、開発秘話が聞ける「ゲスト講演」のイベントなどもあります。

筆者がある発明勉強会の司会進行をしていたとき、色々な体験談を話してくださったゲストのお話に対して「知っている内容ばかりで聞く価値がなかった」「参考にならなかった」と評価する発明家がありました。

これも、非常にもったいない考え方です。勉強になる点は、講演の内容だけではありません。

たとえば、話し方の順番や語りかた、表情やボディランゲージなども、いつか売り込み先の企業に訪問して、社長を前に発明品の説明をする際にも役に立ちそうです。話し方によって、印象はだいぶ変わります。内容は退屈な講演であったとしても、魅力的な話し方であれば、「よい話し方の見本」として、やはり活かすことができるのです。

10 素直な心を持つ

批評家の小林秀雄氏は、「言葉が美を見る眼を奪ってしまう」例を、『美を求め心』という著書の中で次のように述べています。

「言葉は眼の邪魔になるものです。例えば、諸君が野原を歩いていて一輪の美しい花の咲いているのを見たとする。見ると、それは堇(すみれ)の花だとわかる。何だ、堇の花か、と思った瞬間に、諸君はもう花の形も色も見るのを止めるでしょう。諸君は心の中でお喋りをしたのです。堇の花という言葉が、諸君の心のうちに這入って来れば、諸君は、もう眼を閉じるのです。それほど、黙って物を見るという事は難しいことです。堇の花だと解るという事は、花の姿や色の美しい感じを言葉で置き換えて了う(しまう)ことです。言葉の邪魔の這入らぬ花の美しい感じを、そのまま、持ち続け、花を黙って見続けていれば、花は諸君に、嘗て(かつて)見たこともなかった様な美しさを、それこそ限りなく明かすでしょう。画家は、皆そういう風に花を見ているのです。」

これとまったく同じことが、発明家にもいえるのです。

六角形にした鉛筆を例にした場合、「何だ、鉛筆を六角形にただけか」と考えた瞬間に、カエル発想法で解説をした「形(六角形)を変えてみよう」という、発明で成功するのに重要なヒントを、最初から脳が無視してしまい、頭の中の思考から消してしまうようになるのです。

これこそ、「他人のアイデアに対する姿勢が、アイデアを見る眼を奪ってしまった例」といえます。

「〇〇を切った程度」と、他人のアイデアを否定する思考しかできない癖を持ってしまった脳みそは、今後、重要なヒントを何個も見逃していくことでしょう。

「ああ、素晴らしい! なぜこの人は成功できたのだろう? 自分もこの人に学びたい」という謙虚な気持ちがあれば、成功のポイントとなった「形を変える」という重要な要素にも気が付くことができ、成功できる発明家としての脳が作られていくはずですよ。

誰でもプライドがありますから、嫌な人の話に耳を傾けたり、素直に他人を認めたりすることは難しく、話を素直に聞きにくいこともあるでしょう。自分を偉く見せよう、知識をひけらかそうとしてしまうのもわかります。しかし、あえて無垢で素直な気持ちになり、成功の決め手になったポイントには目を向け、他人の言葉にも耳を傾けましょう。そして、自分の専門知識はさておき、まずは、謙虚に学ぼうとする姿勢を持つことが重要なのです。